

## あ と が き

高山帯歩道は既に人為の影響で荒廃が進み、その後、ある時点より水の集中により浸食が進んだものと考えられる。その浸食は、元の状態に復元は不可能であるという根源的な欠点については、十分留意しなければならない。

検討結果より、基本的には歩道部分をはっきりさせ、利用者が登山しやすい歩道にすべきであると結論が得られており、白山高山帯歩道整備にあたっては、歩道が河原状となって歩きにくい箇所が少なくないので、きめこまかな横断排水をはかり、歩道の水を平面的に広く分散する工法が必要と思われる。

施工後の緑化復元については、継続して緑化復元調査を実施し、場合によっては緑化復元が思わしくない場合には、登山者に理解を求め、迂回、休道（通行止）の処置をとり、他の登山道利用の協力を得る。いずれにしても、利用者の自然に対する深い認識を基礎とした適正利用に対する積極的な参加と協力が得られるようにすることが、保護の基本的な視点と思われる。